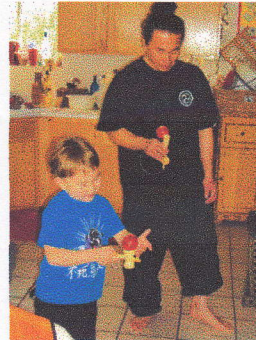


けん玉は万国共通語！

私は和太鼓を長年やっておりますが、実は同時に「けん玉愛好家」でもありました。海外の方と交流する際に、太鼓は何処でもは出来ませんので、そんな時にはけん玉をやっていました。(左下の写真は2007年ガーナのアフリカン・ミュージシャンとの共演後のパーティーでの様子です)

また、一昨年息子を連れて米国へ太鼓の指導に行った際には数個のけん玉を持って行き、毎夜のホームパーティーではたいへんウケました。(右下写真)

息子は米国でウケたことが病みつきになり、以後急成長し、現在は2段にまでなりました。



もちろん、太鼓仲間が海外へ行くときにも餞別として持たせ、また、海外から来られた太鼓仲間にはお土産としてけん玉をプレゼントしてきました。

私は英語やその他の外国語が話せるわけではありません。でも、けん玉なら言葉が通じなくてもコミュニケーションすることができます。

日本人としてのアイデンティティーを表現する手段としては「お琴」等の和楽器や「柔道」等の武道など、様々なものがあるとは思いますが、けん玉はその最も手近なツールだと、こうした経験から実感しております。

もちろん、日本人に対しても、人前で披露すれば喜ばれ、お教えしても喜んでもらえる、老若男女を問わないコミュニケーションツールですし、他にも、集中力が自然と身に付く遊びであるというメリットもあると思います。

ぜひとも多くの方々にけん玉の魅力を知ってもらい、けん玉が皆さまの豊かな人生の一助となればと、心より願っております。

平成23年1月12日

愛媛県けん玉協会

副会長 宮川 透